

研究紀要第17号

ひとりひとりを生かす保育

— 個と集団とのかかわりをみつめる —

1978

島根大学教育学部附属幼稚園

序

「ひとりひとりを生かす保育」をめざして教育研究をはじめて早や6年次を迎えることになりました。この間の研究の展開については、研究紀要の紙上を通じ、又、実際の保育を公開する中で多くの方々に批判を求めてきたところであります。

わたくし達の願う教育の意図は、自由な自己表現のできる子、困難への強い耐性をもつ子、連帯感のある子、を目ざして、真に「ひとりひとりを生かす」ことに徹することです。そのために、可成り突っ込んだ「子ども研究」を実施し、子ども観察を土台にした「子どもを語る会」を定例的に進め、ひとりひとりを生かす方途をさぐりもとめてきました。一方、「保育研究」も積み重ねてきました。これらは要するに、子どもの生きる願いと、それを見つけ、伸ばそうとする教師の願いとの具体的な接点を、いつ、どこに求めるか、という課題の追求であったといえましょう。

ひとりひとりを生かすためには、個と集団とのかかわりが特に重要であります。個の深まりは集団への拡がりではなくてはならず、また、集団への拡がりも個を深めるものでなくてはなりません。

ここに集録された各論文は、以上のような研究上の共通理解を基礎にした、筆者たちの個性的な接近の足跡であります。各位のご批正をお願いいたします。

昭和53年10月

島根大学教育学部附属幼稚園長

上 田 順 一

目 次

序	上 田 順 一	
ひとりひとりを生かす保育	玄 田 初 栄	1
— 個と集団とのかかわりをみつめる —		
子どもの「居場所」の変容をみつめる	玄 田 初 栄	18
— 成長のすじみちの模索〔Ⅲ〕 —		
表現を支える対話を求めて	奥 村 文 子	105
仲間づくりをみつめる	鎌 田 恵 子	140
— 竜太郎とその周辺を追って —		
友だちとのかかわりの変化	宇 京 和 美	176
— 雪子の生活を追って —		
遊びきる子どもの姿を求めて	横 山 恵 子	212
— 小動物との遊びから —		
資 料		247

～ 研 究 同 人 ～

上 田 順 一

奥 村 文 子

吉 野 茂 樹

横 山 恵 子

玄 田 初 栄

宇 京 和 美

鎌 田 恵 子

野 津 道 代

島根大学教育学部附属幼稚園